

〔身體和名集加〕カニグソ　カニバ、胎屎

〔身體和名集字〕ウソコ　屎

〔日本書紀神代〕素戔嗚尊之爲行也甚無狀、略中 秋則放天班駒使伏田中復見天照大神當新嘗時則陰放屎於新宮。

〔正字通尸〕屎同尿古借矢

〔古事記上〕爾速須佐之男命、略中 亦其於聞看大嘗之殿屎麻理此二字以音散

〔古事記傳八〕屎麻理書紀に送糞此云俱蘇摩屢とあり麻理は大小便をすることなり万葉十六

十八に屎遠麻禮竹取物語に燕の麻理置る舊糞などあり麻留と云るも此言ぞ猶傳五五十

考合べし散は知良須と訓べし下なるも同じ阿加都訓は悪し是所爲を中卷神功后段大祓詞古には拾遺同

屎戸と云り此事は彼段に委云書紀には陰放屎於新宮とも於新宮御席之下陰自送糞云々ともあり凡

て爾閉する時は萬を慎み齋こと上に云が如し新宮とあれば此料に宮をも新に造たまふこ

と見ゆ然處へ如此穢はしき行乞給ふは暴惡給ふことの甚きなり

〔延喜式八〕六月晦大祓十二月准之祝詞

天津罪止 畔放溝埋樋放頻蒔串刺生剝逆剝屎戸許々太久乃罪乎天津罪止法別氣氏略

〔大祓詞後釋上〕屎戸 後釋戸は借字なり久曾閉と訓べし閉は閉理の理を省ける言也かくさ

まの理は省く例多し日並知と申す御名をひなめしと申すがごとしさて屎閉理とは古事記

に屎麻理とあると同事にて屎をするをいふ和名抄に痢久曾比理乃夜万比また放屁倍比流

とある比理と閉理と通音にて同言也今の俗言にも小き虫などの卵を生出して物につけお

くをへりつづるといふも是也さてこはもと須佐之男命の犯し給へるは大嘗の殿を穢し給

へるによりての罪なれば此國土にして人のうへにても穢すまじき所を此わざをして穢す